

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370700456		
法人名	医療法人社団 きのこ会		
事業所名	グループホーム 井原ラーゴム		
所在地	岡山県井原市西方町1425-1		
自己評価作成日	令和 7 年 2 月 14 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム井原ラーゴムは、入居者様と寄り添う時間を大切にしていくことを目標とし、日々のケアを工夫して、より充実した関わりが持てるよう努力を続けてきました。コロナウィルス、インフルエンザ対策等、継続しながら、並行して、今の井原ラーゴムに何ができるか、入居者の皆様、ご家族の皆様、そして、井原市の地域の皆様が必要とされる施設でありたいと思っております。日々のケアに関しては、ご本人、ご家族と連携をとりながら、まずは、居室でのご本人にそった生活を組み立てていきます。同時に、共同生活の利点を活かし、9名の入居者の方々が、ホールでその季節に応じた行事や、レクリエーション活動を楽しむこともできます。井原ラーゴムの利点として、同敷地内に診療所が併設されている事があげられます。体調に不安がある時は、連絡し、対応させていただきます。その他にも近隣にある、同じきのこグループの施設と協力して行事も考えております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370700456-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 7 年 2 月 21 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

突然の訪問にも関わらず、入居者は「いらっしゃい」と温かく迎え入れてくれ、帰り際にも「ご苦労様でした」と労いの言葉を頂いた。居室までの長い廊下には、座り心地の良さそうなソファがゆったりと置いてあり、休憩スペースになっている。壁面の飾り棚には、木彫りの七福神が入居者を見守るように飾られていて、撫でたり拝んだりする事が日課となっている方もいる。歌の好きな方がいつでも歌えるようにと、長い壁面を利用して、季節ごとに大きく歌詞を貼り出していると、いつの間にかそこに人が集まり、合唱を奏でている。居室からリビングへの間も、入居者の癒しと憩いの場となっている。入居者から職員に豊富な知識を惜しみなく教えて下さる事もあり、ベトナムの技能実習生には雪や井原地域の事、方言を教えて頂いた。職員は皆、入居者と寄り添い一緒に過ごす時間を大切にしており、馴染みの関係でありたいと願っている。入居者も職員に心を開き、心配事や心の整理がつかない事を相談されている。リビングでは職員と入居者が集い対話を楽しんでいる姿が印象的で、評価の間も楽しそうな会話や笑い声が絶えず聞こえてきて、こちらも仲間に加わりたくなった。施設名である「ラーゴム」の言葉通り、入居者にとって丁度良い、ゆったりと安心できる暮らしの場所になっている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年間目標を決定する際、運営推進会議等を利用し、理念を職員、地域住民に伝え、理念に準じた目標の作成を住民と共に決定することで、双方にその周知をする取り組みを実施している。事業所内にも掲示し、来訪者の方に見ていただく。そして、職員が毎日確認することで共有し、理解に努めていく。	理念はリビングに掲示している。毎月のミーティングで、毎日のケアと照らし合わせて、理念に沿っているかの確認をしている。理念とは別に、グループホームの目標も掲示していて、折に触れて確認する場を設けている。	理念を浸透できるように工夫してみてはいかがでしょうか。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前におこなっていた交流の再構築に努めていく。加えて令和7年9月に予定しているきのこフェスタを活用し、地域の交流を図っていく。	コロナ以前は、児童養護施設との手紙のやり取りや子どもからお年寄りまで楽しめるイベントに参加していた。地域との活動を少しずつ再開しようと考えている。現在は、井原市内の関連グループや住民とのふれあいの場として、きのこ荘フェスタを企画していて、現在準備中である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	どういった行事をしているか、利用者がどういったことを喜ばれるかを隔月発行している新聞、イベントの際に紹介するなどして発信し、理解と協力を得ると同時に地域のニーズを求めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防のため、会議は中止している。家族からの意見や要望は、電話や屋外での面談でおこなっている。	民生委員、ケアハウスの管理者、福祉課職員、町内会長が参加している。活動状況、入退居の状況、事故報告をしている。キノコフェスタについても議題として挙げ、協力のお願いや希望を相談している。	参加メンバーを増やして、様々な意見を取り入れられるようにしてみても、いかがでしょうか。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状、管理者の変更に伴い、また新たに、連携を図っていく必要がある。我々ではわからない、地域の潜在的ニーズも井原市と協力させていただくことで理解し、対応していけるよう取り組んでいきたい。	管理者が窓口となり、基本的には電話やメールで対応している。書類は直接持参している。担当者は親切・丁寧に教えてくださり、大変頼りになっている。市からは、地域の住民対象のミニセミナーの講師を依頼されたこともある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義を学び、日常に拘束に値するものが無い、常に気をつける習慣を身につける努力を実施している。	3ヶ月に1回身体拘束委員会を開催し、拘束をしないケアの方法や家族に誤解を与えない伝え方を学んだ。スピーチロックについては、当てはまる言葉や実際にあった事例参考にして、適切な言葉を選ぶようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の種類を学び、職員間で互いの行動が利用者に対しての虐待に値しないか、個人だけでなく全員での認識として、とらえていく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等を活用し、ニーズに合わせた制度利用ができるよう円滑にサポートしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が実施し、入居の際、その時出た問題点を当面の取り組み内容とすることで家族の理解とさらには協力を得ている。入居後の変更時も説明した上で、同意を書面でいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様を中心に据えた生活を目指すために要望を取り入れ、目標として表している。個々の家族からしか意見が聴取できない状況だが、その分密な話し合いをして要望を導いている。	ホールに「心配事の記入用紙」を置いていて、本人に直接書いて頂いている。あまり話をされない方からは、表情や体調の変化から読み取るようにしている。家の事が心配な方とは、家族と連絡を取って、細かな確認をして、安心して頂いた事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、管理者含め、リーダー、法人の介護部長、事務長とも連携し、その職員の意見や提案にあわせた対応をおこなっている。	毎月のミーティングで意見を出し合っている。各ユニットのリーダーに管理者が直接話をしている。急な休みの希望があれば、その都度対応している。ゴミ置き場が狭くて何とかして欲しいとの要望が挙がり、他施設と共同でゴミステーションを整備して、大いに助かった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が無理なく働くことが出来るよう、勤務の調整等おこなっていく。定期的な人事異動も含め、環境の配慮にも努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年数や、資格の有無を含め、様々な職員がいるので、その職員に適した研修取り組んでもらう。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内に様々な施設があるので、イベント時の交流や、会議での活動状況報告などに取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話(嗜好、趣味、歴史など)を家族の意見を踏まえながら聴取し、本人の潜在的ニーズまで充足できることを目標に関わりを深く取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の方との距離感に変化が出てくるので、利用開始時は、特に詳細な情報を共有し、連携を円滑に図ることができるよう努めていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人らしさを大切に、ニーズと現状を把握したうえで、日々の生活に照らし合わせたサービスを提供していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の管理する施設を利用するというよりむしろ入居者個々の家庭生活の場に職員が参加させてもらっているという意識を持ち、家族のような関係構築に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には主に本人の「気持ち」の部分伝えている。言動のどういったことから「気持ち」を汲み取ったかを説明することで認知症と、何より本人の理解を求めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や、電話を利用しての関係性の継続、安心感を与えてくださる周囲の環境を大切にしていくなため、我々が間に入り、つながり続けていく。	現在面会は、玄関先に場所を設けていて、感染対策をして実施している。郵便局にお勤めだった利用者の元の後輩が、最新の井原堤の切手のサンプルを持って面会に来られ、「発売されたら現物を持って来る」と言われていた。利用者はその日を職員共々心待ちにしている様子である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中でも、どうしても人間関係はつきものであり、良いこと、悪いことも含めて一旦受け入れたうえで、お互いの譲りあえるポイントを探していく。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後はいつでも本人と家族の相談窓口としての役割を実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を中心とした生活を送るため、日常のコミュニケーションの中から、本当の希望(ニーズ)を見出す努力をしている。	日中よりも夜勤時に話を聞く事が多い。特に心配事は、居室で1対1の場面で話をするようにしている。昔、家族間で起きた出来事の話をする方もいる。帰宅願望の強い利用者同士で話し合っているのを聞いていると、職員よりも上手に聞き出している事もあり、参考となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活に活かせるよう、できるだけ多くの情報把握に努めている。また身体能力に応じた色々な事にチャレンジしてもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、毎日のバイタルチェック、医療機関との連携、カンファレンスなど、その人らしい生活を守るための記録や話し合いの場を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心として、各担当者がニーズを探り、ご本人に関わる資源を有効活用できるように計画を作成していく。	入居時にケアマネージャーが作成し、6ヶ月間様子を見ながら修正を加えている。ケアプラン作成の手順を事務所に貼っている。モニタリングは、職員全員から意見を聴取し、担当者が取りまとめている。持病のある方は、医師の助言も頂いている。家族からの要望があれば、可能な限り取り入れるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アイソープ方式の記録を採用し、本人の行動だけでなく、そこから推測される本人の想い、スタッフの考えを記録に残し、実践、モニタリングにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1階と2階との協力体制により、入居者間の交流や外出等を行っている。正月には、近所の県主神社へお参りに行かせていただいた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のならわしや地域行事など、地域住民や入居者から情報を聴取したうえで、利用者のQOL向上のに役立させてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同敷地内の診療所と医療連携をとっており、タイムリーな情報を共有していることから、本人、家族にとってそのとき最も有効な医療を受けてもらっている。	入居時に全員がかかりつけ医に転医している。2週間に1度の往診があり、急変時には夜間でも往診して頂け、利用者からの信頼も厚い。他科受診は、基本は家族送迎である。歯科は毎月往診があり、口腔ケアや嚥下指導、入れ歯の調整をして頂いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師はいない。連携先の看護師に正確な申し送りが出来るよう記録等の徹底、毎日のバイタル報告を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院時、医療機関からの説明の理解を家族が納得いくまで求めている。再発の可能性や今後起こりうる項目に関して十分話し合う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの経験を通じて、重度化や終末期に至るまでに何か本人と家族と一緒に出来る事はないか(思い出作り)を提案している。終末期を迎える家族とは、互いの不安を出し合い、それらの解決プランを話し合っておくことで、終末期ケアの不安を軽減する努力をしている。	入居時に終末期ケアにおける確認書で説明し、同意書を頂いている。重度化した時には、医師が状態を説明、管理者が家族と相談して、再度確認をしている。デスカンファレンスでは、反省点を活かせるように取り組んでいる。また、家族から感謝の言葉が職員の励みとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しており、病変時などは直接かかりつけの医師に連絡がとれるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年毎に昼間、夜間を想定した避難訓練を消防署員立会いで実施し、近隣住民の参加もしていただき建物の構造や避難場所、利用者数など説明している。	年2回、昼夜想定で避難訓練を実施している。また、法人全体で火災訓練も行っていて、応援体制の確認もできた。消防署立ち合いの基、通報訓練や泡消火器の使用方法も学んだ。備蓄は、水や加熱不要のレトルト食品、缶詰やゼリー飲料を3日程度、施設内で保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内での社会性を重視し、中核症状や周辺症状で本人が周囲から孤立しないようスタッフが関わっていくことで誇りとプライバシーを守っている。	呼称は苗字に「さん」付けで呼んでいる。排泄失敗時には、何事もなかったように誘導している。居室に入る際には、ノックをして、返事があれば入室するようにしている。静いのが起きた時には、職員が間に入り、話題を変えるように配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の生活で関わっていく中で、コミュニケーション一つ一つから意思を尊重できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気分や体調に合わせ、お一人でできること、皆さんと一緒に過ごす事も出来るよう環境を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の購入などは家族にお願いし、本人の好みの傾向を教えてもらい、それらを反映させた援助が出来るよう努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目に見える場所で調理をし、家庭的な雰囲気を味わっていただく。季節や行事に合わせて対応している。	3食とも、職員がメニュー決めから考えている。週1回、職員が買い出しに出掛けている。定期的に管理栄養士の訪問があり、助言を頂いている。おやつも頻繁に手作りしていて、誕生日ケーキは毎回好評の声を頂き、写真からも満面の笑みの様子が窺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分補給に変調があれば記録に残し、主治医、看護師と相談しながら、時間をずらす、食材や量を工夫する援助を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医による、口腔衛生指導などから、誤嚥、呼吸器系疾患などを防ぐ為の専門的な知識と技術の習得に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた援助を実施している。自室にトイレがあるのでその方の利用しやすい環境を整えている。	各居室にトイレが付いている。排泄チェックシートを活用して、タイミング良く言葉掛けをして誘導している。また、自立している方も多くいる。ケアマネジャーの助言もあり、下肢が不安定な方への対応として、トイレの入り口から便座まで手すりを付けて、安全面に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の排泄状況をチェックし、運動、飲食物の工夫、服薬等の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2、3日に1回、入浴をおこなっている。無理なく本人のペースで入って頂いている。	入浴は週2回以上の提供。ほとんどの方が自立もしくは職員の介助で浴槽に入ることができる。数名はリフト浴を使用している。気分を変えるために入浴剤を用意している。脱衣場には、富士山の写真を飾っていて、銭湯のような気分が味わえている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤の使用を極力さけるために、日中の関わり方に重点をおいて援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	前日のスタッフ、夜勤者、提供するスタッフでのトリプルチェックをおこない、誤薬、服用忘れを未然に防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	こちらから題材を提供するばかりではなく「スタッフに教えること」も楽しんでもらっている。(方言の意味、ものの名前、由来など、地域の年配の人しか知らないようなこと)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣や花見や紅葉狩り等の非日常的な外出は、ミーティングで決定して計画的に実施している。1階と2階との協力体制(スタッフの確保)により、早朝、深夜を除いては、外出できる環境をつくっている。	お正月には近所の県主神社へ初詣へ行き、お賽銭を投げて、おみくじを引いた。井原堤や田中公園へのお花見、嫁入らず観音では紅葉を堪能し、美星の青空市場へ出掛けた。気候が良い日には、近隣の散歩へ行く。畑で育てた芋を、焼き芋にしたら、喜んで頂けた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はスタッフが一括しておこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「ラーゴム新聞」を発行し、担当スタッフの手紙を添えて隔月で家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮したうえで、ホール内の配置を時々変化させ、その時期の飾りや日当たりなどで季節感を出し、また、同環境下でのマンネリによる意欲低下を防ぐ工夫をしている。	リビングでは一緒に体操をしたり、壁に飾る作品を作ったりしている姿が窺えた。普段から職員と利用者がおしゃべりを楽しんでいる、笑い声がよく聞こえる。隣接した畑では、元気な利用者が職員と一緒に花や野菜を作っている。歩けない方も窓辺でその様子を眺め、同じ空間を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの備品配置に流動性をもたせている為、タイムリーに場所を作ったり、替えたりが可能である。寝たきりの方でも過ごせるようスペースを設けた。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や、家族の写真など持参いただき、落ち着いた空間で過ごすことが出来るよう工夫している。	壁に古い友人が描いた高峯秀子の鉛筆画が飾られていて、その友人の事を懐かしそうに話してくれた利用者がいた。お洒落が好きな利用者の居室の出窓には、ミニ観葉植物が並べられていて、レースのカーテンが掛けられていた。冷蔵庫を持ち込まれている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子、ソファなど個々の身体状況に合わせた工夫をほどこしている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				